

特集

質的研究成果の実装と 査読の役割

看護学における質的研究の現在：
QUARIN-J セミナーより

- | | | |
|--|-------|----|
| 研究の背景とセミナーの趣旨 | 萱間真美 | 10 |
| 行為文脈設定型実装研究へ
——「実践への示唆」を重視する | 木下康仁 | 14 |
| 現象学的研究の査読者への期待
—— 解釈学的循環を実現するポイント | 西村ユミ | 22 |
| 「ケアの意味を見つめる事例研究」から考える査読のあり方と
科学的厳密性の提案 | 山本則子 | 30 |
| 看護学における質的研究論文に用いられた方法論の動向 | 三浦友理子 | 40 |
| ディスカッションとセミナーのまとめ
グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 萱間真美, 木下康仁, 西村ユミ, 山本則子 | | 46 |
| 【コラム】 QUARIN-J について | 榊美樹 | 51 |

連載 Journal Club on Paper II 英論文からリアルワールド・データ解析をどう学ぶか・3

米国退役軍人保健局における禁煙薬物療法の有用性

—— 傾向スコア分析を中心に学ぶ(Duffy et al., 2019) 森本明子

58

看護実践モデルの構築・評価・改善 —— その方法とプロセス・4

若年女性の月経痛の対処に焦点化した

看護実践モデルの構築 福山智子

68

集まる つながる 広がる 若手研究者のバトン・33

看護理工学を基盤に、ケアの「なぜ」の探索と

「無いならつくる」によってめざす、より良い未来 高橋聡明

1

書評 『臨床・研究で活用できる! QOL評価マニュアル』

「測りにくいことを測る」への挑戦 友滝愛

56

INFORMATION 52

今月の本 76

バックナンバー 78

次号予告・編集後記 80